

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol. 1



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2008 Spring-Summer



Photo：博物館のシンボル展望塔

- ごあいさつ..... 2
- 開館記念展Ⅲ
光は西から— 弥生人、文明との出会い—
について... 3
- 夏季企画展
古代の漁業..... 4
- 考古学トピックス
出土品（モノ）の年代は
どうして決めるのか？..... 5
- 楽しい古代体験を目指して..... 6
- 考古博物館のボランティア活動..... 7
- イベントスケジュール ほか..... 8

ごあいさつ

兵庫県立考古博物館
館長 石野 博 信



兵庫県立考古博物館（こうこはく）が平成19年10月13日にオープンしました。

わたしたちの博物館は地域文化への理解を深め、新たな「ひょうご文化」の創造に寄与することを目的としています。

考古学の基本は「遺跡」と「遺物」です。これらを最大限に活用し、来館された皆様の参加・体験を通じて兵庫県の古代文化を解き明かしています。

館内に入るとそこには考古学の世界がひろがっています。数千年にわたり使われ続けた土器、獲物を追った旧石器人、森に生きた縄文人、土地を拓いた弥生人など、兵庫県の3万年の歴史を彩った主役たちが皆様をお迎えします。海外をめざして船出した実物大の古代船や、播磨産の石材で造った大王の石棺など、日本中で、ここにしかないものが展示されています。

展示を通じて、古代人たちがつくったもの、さわったもの、食べたもの、何でも体験しましょう。彼らの知恵と工夫を学び「生きる力」を実感してください。

博物館の隣には史跡公園として整備された「播磨大中国古代の村」があります。博物館から飛び出し、大空の下で復元された竪穴住居跡に入り、本物の遺跡に身を置いてここに生きた弥生人たちに思いをはせてください。

誰もが、いつでも、どこでも参加できる博物館を目指した兵庫県立考古博物館。

スタッフ一同、心からお待ちしております。ぜひご来館ください。

開館記念展Ⅲ

光は西から ―弥生人、文明との出会い― について

学芸課 学芸員 多賀茂治

中国は東アジアの他地域にさきがけ、高度な文明の段階に到達し、周辺に影響を与え続けた「光のみなもと」でした。この光が日本列島に及んだのは、弥生時代のことです。開館記念展Ⅲでは「光は西から―弥生人、文明との出会い」と題して、兵庫県内の弥生時代～古墳時代初頭の遺跡から出土した「文明のかげら」を展示し、その当時の「ひょうご人」に「文明」が与えたインパクトについて、「農耕」「金属」「帝国」をキーワードにご覧いただきます。

農耕との出会い

日本列島における本格的な農耕は、中国の長江流域を源とする水稻農耕が朝鮮半島を経て北部九州に伝わることにより始まります。朝鮮半島との深いつながりを示す曲り田遺跡（福岡県）出土品は、弥生文化の源を示す資料です。兵庫県には、北部九州で育まれた弥生文化が瀬戸内海・大阪湾沿岸部に伝わり、大開遺跡（神戸市）などの農耕集落が出現します。農耕は“ひょうご人”が出会った最初の文明であり、人びとの暮らしを大きくかえてゆく原動力となりました。



弥生時代早期の土器
曲り田遺跡（福岡県）福岡県教育委員会蔵

金属との出会い

弥生時代前期末（約2,200年前）に、中国東北部の青銅器文化の影響を受け朝鮮半島で発達した青銅器が北部九州に流入します。“ひょうご人”と金属の出会いは、銅鐸や銅剣など、半島製青銅器をもとに国産化された青銅製の「まつりの道具」の使用に始まります。古津路遺跡（南あわじ市）から出土した14本の銅剣や望塚（加古川市）から出土した銅鐸の、光り輝く金属の光沢は弥生人にとって文明を象徴するものでした。弥生時代中期後半（約2,000年前）に

なると本格的に鉄の道具の使用がはじまり、青銅以上に社会を大きく変えていきます。鉄の素材は朝鮮半島から入手されたため、その入手をめぐる争いは、後に社会が統合されるきっかけとなりました。



大量に出土した銅剣
古津路遺跡（南あわじ市）当館蔵／国立歴史民俗博物館蔵

帝国との出会い

紀元前2世紀に前漢の武帝によって朝鮮半島に楽浪郡がおかれ、日本列島の住民と漢帝国との交渉が始まります。立岩堀田遺跡（福岡県）出土の前漢鏡や志賀島（福岡県）出土の「漢委奴国王」金印は、漢帝国と北部九州の弥生人との交渉を物語る資料です。“ひょうご人”と帝国との出会いは、森北町遺跡（神戸市）出土前漢鏡など、北部九州で分割された中国製青銅鏡の流入で始まります。やがて弥生時代末期（約1,800年前）、邪馬台国を中心に倭国連合が成立した頃になると、内場山墳丘墓（篠山市）出土素環頭大刀をはじめ県内各地の墳墓から後漢鏡などの中国製品が出土するようになります。そして古墳時代には、西求女塚古墳（神戸市）など県内の古墳から三角縁神獣鏡や画文帯神獣鏡などの中国製の鏡が大量に出土するようになります。これは倭国王が中国皇帝に遣いを送って入手したもので、帝国の権威を帯びた鏡を手にした“ひょうご人”たちの視界の中に、ようやく「文明の源」が明確に意識されるようになったのです。

その後の日本列島の歴史は、文明の源である中国との国際関係の中で、朝鮮半島の動向ともかわりながら展開していきます。

“ひょうご人”たちと文明との出会いを通じて、国際化の著しい現代社会のこれからの歩みについても思いをめぐらせてみてください。

夏 季 企 画 展

古 代 の 漁 業

学芸課 学芸員 中 川 渉

「企画展」では館蔵品を中心に、常設のテーマ展示で盛り込めなかった興味ある遺物や、兵庫県という風土ならではの出土品を、毎回違った切り口でご紹介します。



兵庫県は北を日本海、南を瀬戸内海・太平洋にはさまれ、海を仲介とする生業・流通の現場において、歴史的にも大きな役割を果たしてきました。テーマ展示室では海の交流の象徴として、古墳時代の古代船を中心に据え、さらに日宋貿易の舞台となった大輪田の泊を再現しています。

もちろん海の幸にも恵まれていて、日本海のカニ、明石タイ、明石ダコは今や全国ブランドです。

こうした豊かな海に育まれてきた地域の歴史を、漁業や海辺での塩作りなどで使われた出土品を通じて、存分に感じ取っていただきたいと思います。



江戸時代の『山海名産図会』などに描かれているように、播磨のタコ壺漁は昔から有名でした。実はタコ壺の歴史は2,000年前にまでさかのぼることができます。神戸市の玉津田中遺跡や淡路市の富島遺跡からは、弥生時代～奈良時代のイイダコ壺が数十個まとまって出土することがあり、現代と同じように縄に連ねて延縄(はえなわ)にしていたようです。播磨町の大中遺跡では竪穴住居跡の中にかたまっている見つかっています。屋内にぶら下げて保管していたのでしょうか。



遺跡から出土したイイダコ壺



江戸時代のタコ漁のようすー山海名産図会より

今回の企画展では出土したタコ壺などの資料を並べるだけではありません。復元製作したタコ壺を実際に海に沈めて、イイダコ漁の実験を行いました。イイダコ漁はイカナゴ漁と並ぶ播磨灘の春の風物詩ですが、漁の成果やいかに！展示室で映像とともにその釣果をお届けする予定です。

塩作りも瀬戸内海沿岸では古くから行われていました。淡路島の西海岸には古墳時代～奈良時代の塩作りを行った遺跡が密集しています。淡路市の貴船神社遺跡で見つかった石敷製塩炉で作られた塩も都へ運ばれたのでしょうか。

『万葉集』では、山部赤人や大伴家持らが、淡路国のことを「御食国(みけつくに)」と詠んでいます。平安時代の法令集『延喜式』には、「御贄(みにえ)」を納める国の1つとして淡路国を挙げています。「御食(みけ)」も「御贄(みにえ)」も、天皇や神に供する食物や食材の意があるので、淡路は朝廷の台所だったといえます。実際に平城京からは、淡路国から塩や海草を運んだ荷札木簡が出土しています。

中国の歴史書である『魏志倭人伝』では、弥生時代の倭人(日本人)の漁の様子を「好んで魚やアワビを捕え、水の深い浅いなく皆沈没してこれを取る」と描いています。

『日本書紀允恭記』は、明石の海で阿波の海士(あま)が10mの海底から大鮑を抱き取って浮上したところで息絶えたという、瀬戸内の潜水漁の逸話を伝えます。

発掘調査で出土した漁具を、そうした逸話や伝説に導かれてじっくり眺めてみてはいかがでしょうか。



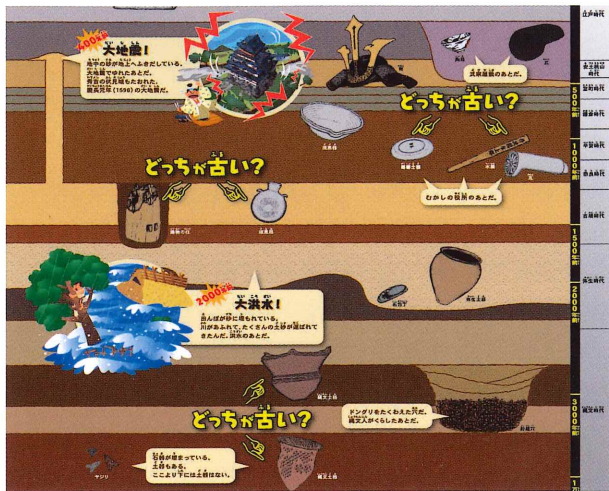
考古学トピックス

出土品(モノ)の年代はどうして決めるのか？

学芸課長 大 平 茂

発掘ひろばの「遺跡を調べよう！」という考古学の基本を知るコーナーでは、年代を決めるための層位学と、型式学を易しく紹介しています。

土器・石器など考古学資料(出土品)の年代には、相対年代と絶対年代とがあります。ごく簡単に言うと、モノとモノとを比較しどちらが古いかというのが相対年代、モノを製作・使用・廃棄したのは何年前かというのが絶対年代です。絶対年代は具体的な数値で示し、相対年代には数値がありません。



◆相対年代の推定手法

相対年代を決めるために、考古学では層位学と型式学という二つの方法を使用しています。

層位学は、下位にある地層は上位の地層より古いとする「地質学の法則」に基づき、各土層の時間的前後関係を押さえ、それぞれの土層が包含するモノの新旧を推定する方法です。展示では、上層と下層どちらのモノが古いなどと問いかけた手動式ロールスクリーンを用いています。

一方、型式学はモノを分類するのに用いる方法で、展示では土器の底部と取手および自動車メーカーの模型で表現しました。人間が作り出した色々なモノには変化する部分と変化しにくい部分があり、こうしたモノの形態に現れた特徴を捉え、一定の考えに従って分類し、新旧の順に並べたのが型式で、その作業を編年と呼んでいます。

これら型式が、年代上の単位や時期を画す指標、文化の広がりを示す地理的範囲の目安であり、編年の順序に占めるそれぞれの位置が相対年代なのです。

さらに、発掘調査において型式学上で古いと推定したモノが下層、新しいと推定したモノが上層から出土すれば、編年の妥当性が保証されます。このように、層位学と型式学両者の成果を総合して編年が成立するわけです。

◆絶対年代の推定手法

考古学的手法では文字資料(紀年銘)を基礎とし、これを手がかり(例えば中国の貨泉、皇朝十二銭、紀年銘木簡など)に相伴したモノの年代を決めています。ただし、三角縁神獣鏡の紀年銘のように製作年代は間違いないとしても、伝世を考える場合には出土古墳の年代とすることができません。埋没までの時間をどの程度に捉えるかが問題なのです。

一般に、縄文以前の絶対年代の推定はモノやそれを含む地層を科学的に測定し、年代を算出する理化学的手法を用います。一つは一定の比率で増加や減少する物理的現象を取り上げ、理論的な比率または現在における測定値を基に推定した比率を試料の測定値に当てはめ、現在から何年前かを推算する方法です。放射性同位元素炭素14の量から、それを持つ動植物の死亡年代を計る放射性炭素年代測定法がその代表です。もう一つは、測定値が過去のそれぞれの地域と時点において固有のものであり、過去の測定値を揃え、それと試料の測定値を対比して絶対年代を推定する方法です。それ故、この方法は測定値が揃った時代にしか適用ができません。年輪幅の広い狭いのパターンから、木材の伐採年代を測る年輪年代測定法がこの代表となっています。



楽しい古代体験を目指して

学習支援課長 村 上 泰 樹

考古博物館の古代体験メニューづくりは、博物館支援ボランティア養成のために平成14年度より開始した“考古楽者”養成セミナーの開設を機に始まりました。セミナーを修了した考古楽者とともに博物館で行う古代体験メニューの開発を続けてきました。

毎日できる古代体験と古代体験講座

博物館で提供する古代体験メニューは2種類にわかれます。予約なしに毎日できる古代体験と時期をきめて開催する募集型の古代体験講座です。

古代体験

毎日できる古代体験は、来館された方々が自由に体験できるメニューです。これまで、試行してきた古代体験メニューの中から、「簡単に短時間に提供できるメニューを作ろう」と考古楽者（こうこがくしゃ：博物館ボランティア）をまじえたワーキンググループで話し合い、5つのメニューを提供することになりました。

1. 不思議なひもづくりループで組みひもー（無料）
2. ドキドキ！ピットンコー土器合わせー（無料）
3. こすってこすってアッチチ！
ー古代の火をおこそうー（無料）
4. ミニミニ石包丁づくり
ー石製穂積み具づくりー（有料）
5. まが玉をつくろう（有料）

現在一番人気のメニューは、不思議なひもづくりと名付けた古代の組みひも体験です。



もともとは5本の指で組むものですが、初心者には難しいので、3本の指で簡単にできるように改良しています。大人向けのメニューとして提供しましたが、子どもにも大変人気のあるメニューになりました。

これ以外に本物の土器の接合が体験できる「ドキドキ！ピットンコ」も用意しています。

5つの古代体験メニューには、やさしい解説シートを付けました。単なる体験に終わらないように、解説シートで「学び」の部分を補うよう配慮しています。

古代体験講座

古代体験講座は、本格シリーズと名付けた募集型の講座です。この講座は、学芸員の解説を受けながら本物を観察し、設計図（実測図）をもとにレプリカ（模造品）を作る講座です。

これまで「本格土器づくり」・「本格勾玉づくり」・「本格石包丁づくり」・「本格織物づくり」を開催してきました。石包丁は遺跡から出土した「本物」と同じ材料を採集して製作しました、それ以外は市販の材料を使って、形を再現することに主眼をおいて実施しています。さらに改良し「本格」を目指していきたいと考えています。

現在、より魅力的な新しいメニューの開発も始めています。楽しみにしてください。

考古博物館のボランティア活動

学習支援課 村 上 賢 治

館内で、左胸と背中に考古博物館のシンボルマーク（手のマーク）がついたカーキ色のエプロン姿の人を見かけたことがありますか？

この方々は考古博物館ボランティアで、74名がいろいろな分野で活動しています（平成20年3月現在）。その活動の一端をご紹介します。



1 展示解説（20名以上の団体向、事前予約要）

テーマ展示室、特別展示室、体験展示室を中心に、展示の解説を行っています。「ときのギャラリー」や「バックヤード見学デッキ」もご案内することがあります。

2 遺跡解説（20名以上の団体向、事前予約要）

博物館の北側に広がる国史跡「大中遺跡（＝播磨大中国古代の村）」を巡りながら解説を行っています。展望塔の上から、遺跡全体を見ながら解説をすることもあります。

3 古代体験

西エントランスから入ってすぐ左の部屋「体験学習室1」では、開館日は毎日6つの古代体験メニューを用意しており、ボランティアが指導にあたっています。勾玉づくりなどの古代体験を団体で希望される場合にも、その指導にあたっています。ボランティアのわかりやすい指導、優しい対応が好評です。古代体験メニューの名前や解説シートも、学芸員とボランティアが共同で作りました。

4 発掘広場「発掘プール」

当館で一番人気の「発掘プール」。土曜日・日曜日には、小さなお子様で一杯ですが、その運営をアシスタントと共に行っています。

5 着付け

テーマ展示室の「古代人に変身」コーナーも人気がありますが、この衣装を着るお手伝いをすることもあります。

6 ときどき ドキドキ体験の補助

テーマ展示室の中央に、大きな石棺と古代船が展示されており、毎週1回、決まった時間に入ったり乗ったりすることができます。その時に学芸員と共にお客様の手助けをしています。

7 新メニューの開発

現在行っている古代体験以外にも新しいメニューを学芸員と共に日々開発しています。

以上のような活動をしているボランティアの皆さんは、博物館ができる前の平成14年度から兵庫県教育委員会が毎年開講している「考古楽者養成セミナー」を修了しています。

「博物館のボランティア」と「地域の文化財ボランティアリーダー」の養成という2つの目的をもったこのセミナー修了生を“考古楽者（こうこがくしゃ）”と呼び、その中で館の活動に参画していただける方がボランティアの登録をしています。

ボランティアは無報酬です。各個人が自分のできる範囲で活動するというのが、当館のボランティア活動の基本です。

また、“考古楽者”の有志による団体「考古楽倶楽部」は学校等の館外での古代体験の指導を行っています。



イベント・スケジュール

	観る 展示会	学	体	験	す	る
		講演会・講座	展示解説・館内ツアー	体験イベント	体験講座	
4月		4/19(土) 「何処に居るのかなー発掘調査と遺跡探査ー」	4/12(土) バックヤード見学ツアー 4/13(日) テーマ展示解説 4/27(日) テーマ展示解説		4/20(日) 大人のための勾玉づくり	
5月		5/17(土) 「古墳時代の海外交流」	5/10(土) バックヤード見学ツアー 5/11(日) テーマ展示解説 5/25(日) 記念展Ⅲ展示解説	5/3(土) 考古博であそぼう！ 5/6(火)	5/11(日) 大人のための土器づくり 5/24(土) 子どものためのまが玉づくり	
6月	5月24日 ～7月6日 「開館記念展Ⅲ 「光は西からー弥生人、 文明との出会いー」	5/31(土) 「列島東伝・中国文物ー弥生人のカルチャーショック」	6/8(日) 記念展Ⅲ展示解説 6/14(土) バックヤード見学ツアー 6/22(日) 記念展Ⅲ展示解説	6/22(日) 鋳型で銅剣を作ろう 6/29(日) ひとがた流し	6/15(日) 子どものための石包丁づくり	
7月	7月19日 ～8月31日 「夏企画展「古代の漁業」	6/14(土) 「対漢交流のカタチ」 6/28(土) 「弥生時代の青銅器の武器とマツリ」 7/19(土) 「播磨灘沿岸の塩作り」	7/6(日) 記念展Ⅲ展示解説 7/12(土) バックヤード見学ツアー 7/13(日) テーマ展示解説 7/27(日) 企画展展示解説	7/23(水) 実物にさわろう	7/26(土) 子どものための土器づくり	
8月		8/23(土) 「古代のタコ壺漁」	8/9(土) バックヤード見学ツアー 8/10(日) 企画展展示解説 8/24(日) 企画展展示解説	8/2(土) 実物にさわろう 8/2(土) 大中遺跡に泊まろう 8/3(日) 実物にさわろう 8/13(水) 実物にさわろう 8/20(水) 実物にさわろう 8/27(水) 実物にさわろう	8/3(日) 子どものためのまが玉づくり 8/10(日) 子どものための石包丁づくり 8/17(日) ユースセミナー勾玉づくり 8/24(日) ユースセミナー石包丁づくり 8/29(金) ループ組紐ステップアップ講座	
9月	9月13日 ～10月19日 「開館1周年 発掘された 日本列島 2008 記念展」	9/20(土) 記念展講演会	9/13(土) バックヤード見学ツアー 9/14(日) 開館1周年記念展解説 9/28(日) 開館1周年記念展解説		9/14(日) 本格勾玉づくり 9/26(金) ループ組紐ステップアップ講座	



このコーナーでは博物館のスポット紹介をしていきます。

メインホールのもっとも眺望のよい場所にあるのがカフェ・ミュージアムショップです。ここでは喫茶と軽食、ミュージアムグッズがお求めになれます。出店しているのは神戸風月堂さん。“和”の雰囲気を大切にした上品なメニューがお客様に好評です。古代体験で使用するまが玉や石包丁の材料、展示会の図録などもここで扱っています。また、オリジナル商品の考古博物館プチゴーフルなどは、おみやげとして人気を博しています。

カフェは無料ゾーンにあり、入館者だけではなく散歩の方の休憩に利用されています。当館のカフェは周辺の皆様の新しい憩いのスペースとして定着しつつあります。



兵庫県立考古博物館NEWS vol.1 2008 Spring-Summer

発行年月日 平成20年 4月 1日
印刷年月日 平成20年 3月25日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
<http://www.hyogo-koukohaku.jp>

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。

兵庫県立考古博物館

